

金沢JAZZ STREET2017



金沢JAZZ STREET2017 (同実行委員会主催、北國新聞社、一般財団法人石川県芸術文化協会、一般財団法人北國芸術振興財団共催) は9月16~18日(15日は前夜祭)、金沢市中心部で開催される。七尾市出身のプロデューサー藤橋由紀子さん(写真)がオープニングコンサートの見どころを寄稿した。

オープニングコンサートに寄せて

プロデューサー・藤橋由紀子(七尾市出身)



世界で活躍するジャズ・アーティストで、ジャズの歴史に名を残せる人はどれほどいるのであろう。ニューヨーク在住のジャズピアニスト秋吉敏子は、紛れもなくその一人であろう。

17歳でプロデビューし、27歳で渡米。昨年、音楽生活70周年を迎え、ニューヨーク・リンカーンセンターでビッグバンドを率いて一夜限りのライブを開催するなど、87歳の今も現役で活躍する伝説のジャズ・アーティストなのである。

全米で最高の栄誉

国際ジャズ名声の殿堂入り

秋吉敏子×マッズ・トーリング

偉大な2人 世代越え共演

を果たし、全米ジャズ界最高の栄誉、国立芸術基金「ジャズ・マスター」の称号を贈られた唯一のアジア人でもある。

2013年に上原ひろみがダウンビートマガジンの表紙を飾ったと大いに話題になったが、その33年前に秋吉敏子はその表紙を飾っているのだから、その偉大さはいくらでもない。

広島から委嘱され、自ら作曲した「ヒロシマ〜終焉から」の第4楽章「ホープ」は、世界から争いがなくなるまで演奏し続けるという強い決意をもち、また実際に演奏し続けている。その音楽家としての姿勢からも、人々は秋吉敏子を敬愛してやまない。

その秋吉敏子が、石川県立音楽堂のコンサートホールにニューヨークからやって来るのだ! クラシックホールでの演奏は滅多にない貴重な機会。このチャンスに秋吉敏子

のピアノソロの世界を堪能してほしい。

OEKと日本初演
一方、37歳のデンマーク人・若手ジャズヴァイオリニストであるマッズ・トーリングは、2016年のダウンビートマガジン誌の批評家選抜のライジングスターヴァイオリニストの第一位として選出された注目のアーティストである。

ボストン・バークレー音楽大学を首席卒業。在学中には、デンマークのマーガレット女王から奨学金を贈られている。卒業後、Turtle Island Quartetで活躍。グラミー賞、グラミー賞最優秀アルバム賞と、2度の受賞に輝いているから、その実力のほどは言わずもがなというところである。そのマッズ・トーリングとオーケストラ・アンサンブル金沢(OEK)との共演の楽曲は、彼が書き下ろしたもので日本初演となる。楽曲としても素晴らしく、彼のヴァイオリンの演奏も圧巻である。秋吉敏子との世代を越えた共演も、今回の楽しみの一つである。ジャズの醍醐味を味わってほしい。

(ふじはし・ゆきこ)

来月16日 石川県立音楽堂

金沢ジャズストリート2017オープニングコンサート「Hope(未来へ)」は9月16日午後1時、石川県立音楽堂コンサートホールで開催する。全席指定で前売りはS席7千円、A席5千円、B席4千円(当日は各500円増)。17、18日に北國新聞赤羽ホールでのスペシャルライブも全席指定となる。詳しくは<https://kanazawa-jazzstreet.jp/>をご覧ください。